

広報市民リポーターだより ⑦

文化祭見てある記

リポーター
石川 富男 (水門前)

彼岸を境にめっきり秋色が濃くなり、夜空を彩った大文字や威勢のいい笛・太鼓の響きが遠ざかるころ、恒例の大館市芸術文化祭の幕が開きます。今年は十月一日の生け花展を皮切りに、各部のレポーターが華やかに繰り広げられ、芸術ムードを盛り上げてくれました。

今回のリポーターは、メイン会場となった文化会館、中央公民館での見てある記です。十八回目を迎えた芸術文化祭、年ごとにレベルが上がり、寸暇を惜しんで芸に打ち込んだ人たちの作品には、多くの市民が関心を寄せています。赤トンボが舞う紺碧の空は芸術の秋にふさわしく、会場へはたくさんの方が訪れていました。

優雅な会場風景
美の創造「生け花」

開幕初日、文化会館展示室は花道愛好家で大にぎわいでした。チャーミングな花器に、曲がった枝や弧を描いた格好のいい茎、空を切るような葉などを、流しや寄せ合わせ、錦生けの技法で生けています。コスモス、ススキ、クリなどを使って季節感を出した現代調や日本古来の楚々とした風情の古典調と作品はさまざま。今日多様な表現方法が用いられているのは、まさに花道の歴史の移り変わりを物語っているように思われます。「瞬間の美を創造することが喜びです。」という専正池の坊の戸田さんの言葉が印象的でした。



アートフラワー会場へ

暮らしに身近かな「書」

書道展では、六朝の臨書やポピュラーな現代書など、白と黒で織りなす変化の表現が見る人に訴えます。

ある意識調査では十人中七人が「筆をもつてきれいな字を書きたい」と思っているとのこと、書は実用書から芸術書へ、さらに鑑賞書へとその趣味志向が高まってきているともいわれています。

慎みおごらぬ「茶」

石川流、遠州流の点前がしずしずと進められているところでした。日本庭園の一隅にひっそりと建てられた茶室で、作法にしたがっていただくものという堅苦しいイメージがあり、日常生活と縁遠い決まりごとは、ちよつと間違えば恥をかきそうです。しかし、「飲む」ことは最も現実的な一つの単純動作ではないかと思ったりしながら一服。「茶の心は「わび」「そ」して正直で慎み深くおごらぬさま」と説かれてはっとしました。

アートフラワー ニットデザイン

暮らしの中の美術がブームをよんでいます。ポスターやチラシ、商品の容器など、廃品を素材にしたアートです。

懐かしい思い出
音楽フェスティバル

ピアノ、マンドリン、ギター、コーラスと各エンタリーが文化会館大ホールで展開されました。流れる曲は、どれも聞き覚えのあるもの。懐かしい調べに、しばし年を忘れて昔に帰りました。少し前の世代のお母さんたちな夢が広がります。



岩谷館長(左)からリポーター

アートフラワー、リビングフラワーなどは現代生活にマッチし、大変楽しめる手芸といえるでしょう。会場いっぱい並べられた作品は、どれも個性にあふれ、エレガントなものばかりでした。一方ニットデザインは、みためはシンプルですが、一本の毛糸で編み上げられたセーターなどは、その技術もさることながら、作った人の気持ち伝わってくるように、暖かでロマンチックな夢が広がります。

生まれ育った土地、郷土をこよなく愛する心が、まちおこしや文化の創造に通ずるのではないのでしょうか。伝承芸能や生涯学習のありかたが今日社会の大きなテーマになっています。新しい時代に向って、余暇を利用したライフワークの進め方が真剣に考えられているのです。

そんな中で、文化会館、中央公民館といういわば芸術・文化・地域住民活動の拠点といえる施設があり、今回の芸術文化祭をはじめさまざまな活動に利用されているのはうれしいことです。

中央公民館の岩谷館長にお話を伺ったところ、四月現在で中央公民館に登録されているサークル数は百二十、延べ利用者数千八百六十六人とのこと。サークル活動一つをみても高い利用率が示されています。日曜、祭日も開放していることが利用者に歓迎されているのでしょう。また「ロビーにはイス、テーブルを置いてますから小さな会合等にお気軽にご利用」と岩谷館長。子育て学級から老壮学級まで幅広い啓蒙運動を進め、開かれた公民館へ意欲を燃やしていました。

のコーラスは、乙女のように澄み渡る声で宵の深まることを忘れさせ、お孫さんたちからも大きな拍手を贈られてどの顔も幸せそうでした。

生まれ育った土地、郷土をこよなく愛する心が、まちおこしや文化の創造に通ずるのではないのでしょうか。伝承芸能や生涯学習のありかたが今日社会の大きなテーマになっています。新しい時代に向って、余暇を利用したライフワークの進め方が真剣に考えられているのです。

そんな中で、文化会館、中央公民館といういわば芸術・文化・地域住民活動の拠点といえる施設があり、今回の芸術文化祭をはじめさまざまな活動に利用されているのはうれしいことです。

中央公民館の岩谷館長にお話を伺ったところ、四月現在で中央公民館に登録されているサークル数は百二十、延べ利用者数千八百六十六人とのこと。サークル活動一つをみても高い利用率が示されています。日曜、祭日も開放していることが利用者に歓迎されているのでしょう。また「ロビーにはイス、テーブルを置いてますから小さな会合等にお気軽にご利用」と岩谷館長。子育て学級から老壮学級まで幅広い啓蒙運動を進め、開かれた公民館へ意欲を燃やしていました。